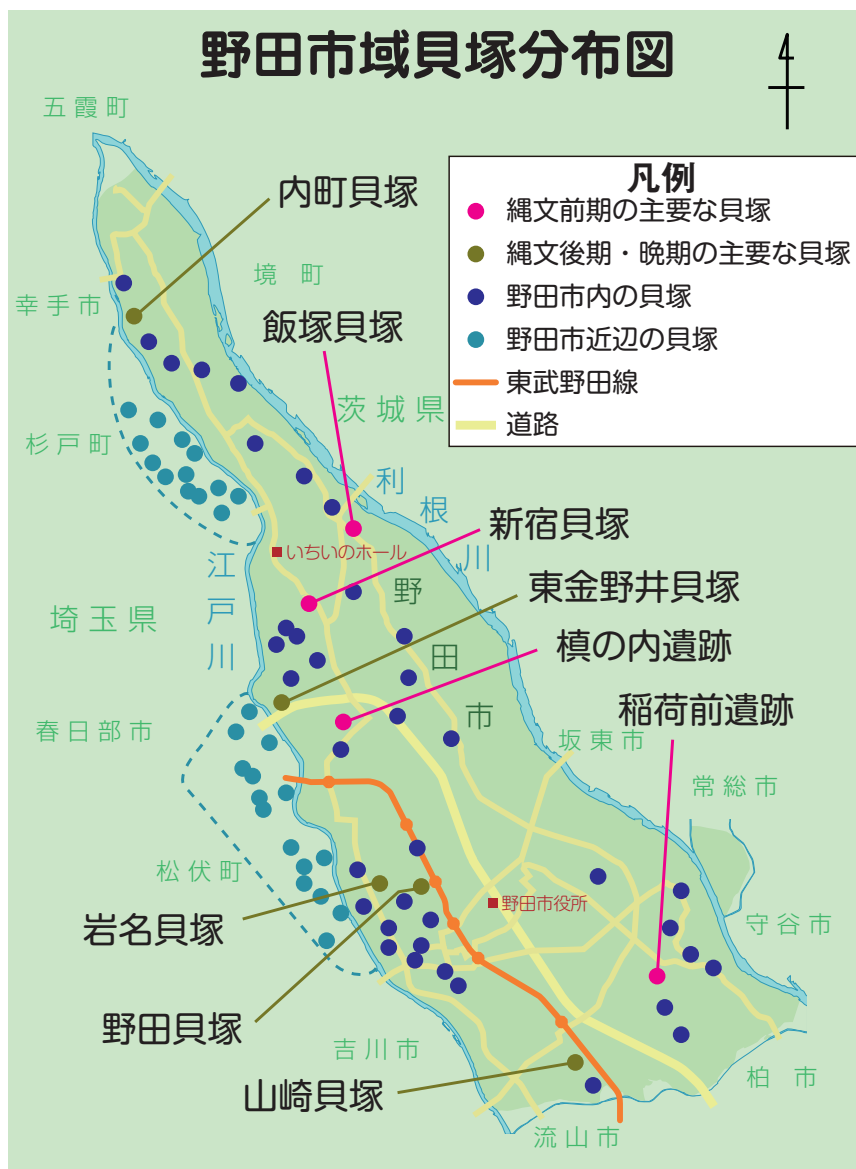




海水が混じる汽水産の貝が主に見つかります。

また、馬蹄型貝塚などの大型貝塚を伴う集落が一定の距離を保ち存在していました。主な貝塚としては山崎貝塚、野田貝塚、岩名貝塚、東金野井貝塚、内町貝塚などがあげられます。

貝塚は、埋まっている貝だけではなく、その位置や古環境、地質学とも関連して、太古の人々のさまざまな暮らし、そして自然の状態までもを私たちに教えてくれます。

史跡公園「山崎貝塚」

梅郷駅から徒歩25分程度に位置す

る山崎貝塚は、国の史跡として指定を受け、史跡公園として整備されており、土の上に散らばる貝を間近で見ることが出来ます。

広さ直径130メートルほどの縄文時代の貝塚で、貝が積まれた地層が谷を挟む形で向かい合うように位置している馬蹄型貝塚です。

山崎貝塚は、

明治25（1892）年に東京帝国大学助手の若林勝邦氏によって最初に踏査、学会報告されました。若林氏は、東金野井貝塚などほかにもいくつかの野田の貝塚について紹介しています。

昭和2（1927）年の調査では、海水産の貝が、古い地層の土器と、汽水産の貝が、新し

い地層の土器と共に見つかりました。このことから、山崎貝塚は、そばに海があった時代から、川となった時代までの長い間存在していたことがわかります。



地表に散らばる縄文時代の貝殻

昭和35（1960）年、昭和48（1973）年から昭和50（1975）年にかけても調査が行われ、人骨や住居跡、土器などが発見されています。

参考資料

- 「野田市史資料編考古」野田市
- 開館30周年記念特別展「野田と貝塚」図録 野田市郷土博物館